

浜松観光ボランティアガイドの会

夏休み子供講座「浜松城と徳川家康」：座学編

7月30日(土)「浜松城と徳川家康公」をテーマに、浜松市防災学習センターにて1日目の座学が開かれました。参加者は小学校3年生から6年生18名、午後1時20分に開始しました。

はじめに鈴木利雄会長が本日の講座内容で不明な点は、いつでもどこでも対応することを子供達に伝え参加者の緊張をほぐした後、事前に配布されたリーフレットを基に、5名の事業部員が以下5項目をわかりやすく説明しました。

- ①家康公が浜松城主になる前
- ②家康公が浜松城主の頃
- ③堀尾吉晴が浜松城主になった頃
- ④浜松城と城下の様子
- ⑤明治以降の浜松城

家康公は幼少期の悲惨な人質時代を経て、18歳で戦国大名として初陣を果たし、その後25歳で「徳川家康」と名乗りました。一生涯戦いの連続の中にあっても、人の命を大切に人を生かして使う、常に天下泰平の世を目指し、260年に及ぶ安定した時代の基礎を築きました。

二代目城主堀尾吉晴の築いた浜松城天守閣は江戸時代初期にはありませんが野面積みの石垣が400年の歴史を刻んでいます。埋門南側の邪(ひずみ)と屏風折(びょうぶおれ)等々各所に工夫が見られ、現地調査では文化財としての価値が検証出来ます。

最後に明日の現地調査の熱中症への注意喚起、集合時間繰り上げ等々の連絡があり、2時半に終了しました。空調管理された室内で子供達、保護者の皆様も熱心に傾聴されていました。

広報部 藤田礼子(中ブロック)



熱心に説明を聞く子供達

夏休み子供講座「浜松城内と城外の境を歩く」：実践編



鎧掛けの松前で

面突破かの作戦会議の結果、鎧掛け松経由で本丸を目指すことに。鉄門から野面積みの石垣を左手にして、土堀の狭間からの狙撃を感じつつ天守曲輪まで上りました。四百数十年前に積まれた荒々しい石垣を見上げると、昔の人は偉かったとしみじみ実感してもらえたようでした。芝生広場まで下り健康チェックの後流れ解散。11時前には参加者、スタッフ共々無事で終了しました。

広報部 前原福子(西ブロック)

浜松城公園の隠れた名所「松韻亭」への誘い

7月19日(火)大雨の降る中、浜松城公園せせらぎの池に10時前に集合し、浜松市茶室に興味のあるメンバーで松韻亭を訪問しました。各ブロックより総勢31名の大所帯となりました。最初に鈴木利雄会長よりご挨拶があり、松韻亭の設計者が有名な建築家であることや、少しわかりにくい場所にあることなどをお話になりました。鈴木会長は以前松韻亭でお勤めされていたそうで、いろいろ裏話などをご存じでした。

松韻亭の設計者は谷口吉生(たにぐちよしお)さんで、東京国立博物館の法隆寺宝物館や、ニューヨーク近代美術館新館などを設計されており、近場では資生堂アートハウス、豊田市美術館とその茶室も手掛けています。実は松韻亭は庭園や建築会社もその分野を代表する会社が手掛けている大変贅沢な場所なのです。

今回参加した人数が多かったため、庭園を見学するグループと、お茶をいただくグループに分かれてお話を伺いました。松韻亭に行かれたことがある方はご存じだと思いますが、呈茶サービスは立礼席(椅子席)です。お茶とお菓子を400円でいただけます。お菓子は浜松老舗のお菓子屋さん花鼓のお菓子です。お茶を提供するのは、裏千家、表千家、宗偏流のお抹茶の三流派と、皇風煎茶礼式、松月流、静風流、方円流のお煎茶の四流派です。月曜日を除いて毎日交代でおいしく点てた、あるいは淹れたお茶を提供していただきます。当日は抹茶の裏千家でした。お茶室に入って掛け軸を見て、お花を見て、季節を感じる和菓子を目と舌で楽しみ、最後に少し苦い抹茶をいただいてすっきりしました。あいにくのお天気でしたが、お茶室の様子やお作法などを松韻亭の平野さんに説明していただき、雨に濡れる美しいお庭の緑を堪能し、優雅な時間を過ごすことができました。



立礼席でお茶とお菓子を

広報部 松沼素子(南ブロック)

東ブロックミニ研修「浜松市博物館で出前講座」



熱心に受講する様子

梅雨に入り小雨が降る中、6月15日(水)10時より浜松市博物館2階会議室にて東ブロックミニ研修が18名の参加者にて開催されました。浜松市博物館鈴木京太郎さんが「浜松の歴史と文化遺産」と題し、旧石器時代から縄文時代を中心とした暮らしの変化について講座がスタートしました。最初に10月～12月にかけて「家康三方ヶ原の戦いと家康伝承」をテーマに当館で展示会が開催予定とのことで是非皆様も足を運んでいただきたいとの説明があり、本題へと話は進んでいきました。

講座は、パワーポイントと配布資料を基に説明が行われ、人類は2万年前に誕生し、旧石器時代には、木の陰で寝泊りし狩りをしながら移住、縄文時代に入ると集落を作り石器等を加工し道具などが作られ定住するようになりました。弥生時代に入ると田んぼで稲作をするようになり土地の取得争いで村と村の争いが始まり、九州・近畿地方から権力者が出てきて国造りが始まり、権力者によるそれぞれの時代の流れで現在の暮らしに発展してきたと時代の変化が目に見えよう講座で大変有意義な時間を過ごすことができました。

コロナ禍で2年以上もの期間、ミニ研修が出来なかったこともあり皆さんが熱心に受講される姿が印象的で、最後の質疑応答では、12時の終了時間をオーバーする程でした。今回のミニ研修では、屋外で昼食をとり参加者の皆さんと懇談しながらコミュニケーションを図る予定でしたが、天候が悪くお弁当は持ち帰りとなりました。お弁当が配られるまでの時間を館内の特別展示室等本日のミニ研修で習った出土品等を見ながら皆さん楽しく会話されており有意義な研修会が出来たものと思っています。今後もこのような研修会がいつでも実施できるような環境になればいいなと感じました。



特別展示室での見学風景

特別展示室での見学風景

広報部 杉山太一(東ブロック)

浜松城公園は、緑少ない市街地にあって浜松市の中心部にありながら豊かな緑に囲まれています。夏の到来とともに、浜松城公園では、セミの大合唱が聞こえ、初秋まで続きます。セミの声は夏の風物詩でもあります。市民の憩いの場として親しまれ、夏になると、親子連れで捕虫網を持ってセミを追いかけたり、セミの羽化殻を見つけたりして、楽しんでいる姿をよく見かけます。

公園のケヤキやソメイヨシノの樹木の幹や枝、葉の裏には、羽化殻がいっぱい見られます。これほど多くの羽化殻はどこから出てきたのでしょうか。よく見ると木の根元には、いくつもの穴があいています。たいていのセミの幼虫は、あたりが薄暗くなるころ、穴から地上に出てきます。這い登った幹から小枝や葉へ、つかまりやすい場所をさがしあてると、もう動きません。やがて、背中の中真ん中に裂け目ができ、あわい色をした成虫の体がちょっとのぞいてきます。裂け目がどんどん広がり、最初に胸が、つぎに頭が出てきます。それから、6本の足を引き抜きます。



レイバック・イナバウアー状態



その後が不思議です。お腹の先を羽化殻の中に残したまま、足をはなして、頭を下げて、宙ぶらりんになります。いわゆるレイバック・イナバウアー状態が約20～30分間ほど続きます。

足が硬くなるのを待って、体を起こすと、羽化殻につかまって、お腹の先を抜き出します。縮んでいた翅もどんどん伸びて、みずみずしい色をしたセミの誕生となります（ここまで約1時間）。夜が明けると、体が硬くなって、色が濃くなると、セミは羽化殻をおきみやげにして飛び去っていきます。

急に起き上がり、つかまる



縮んでいた翅を伸ばす

皆さん方にも、このすばらしいセミの大変身をぜひとも観察してほしいと思います。

浜松城公園でどんなセミがどのくらい発生しているか、私が2016年にセミの羽化殻の調査をしました。多い順にアブラゼミ1022個(49.7%)、クマゼミ1002個(48.7%)、ニイニイゼミ24個(1.2%)、ツクツクボウシ8個(0.4%)の4種の羽化殻を見つけることができました。樹木別にみると、ケヤキ(365個)、ヒラドツツジ(290個)、ソメイヨシノ(203個)にたくさんのセミが発生していました。

右上のセミの羽化殻の分布図を参考に、あらかじめ昼間に羽化殻がついている樹木にねらいを定めて、夕刻以降に、樹木を登る幼虫や羽化している個体を見つければ羽化の様子、つまり幼虫から成虫に変身の姿を見ることができます。

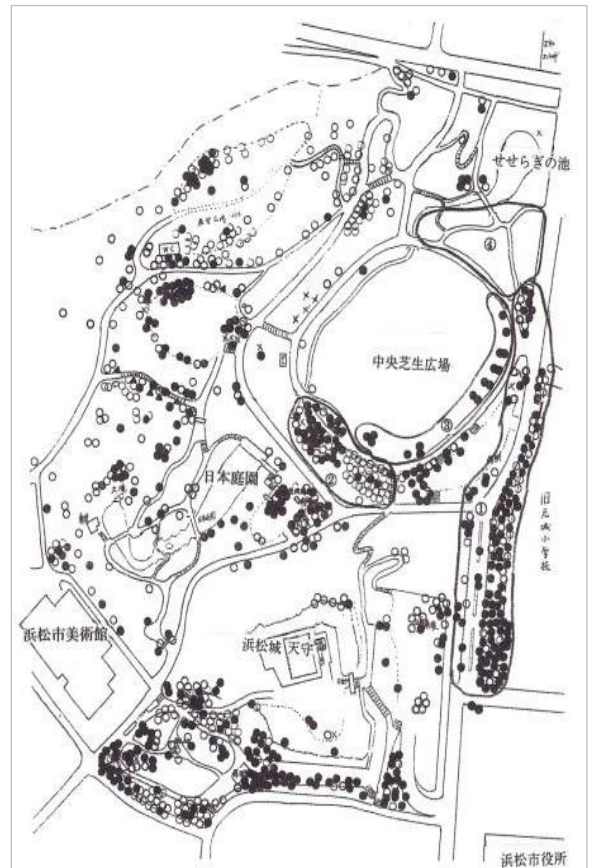


図2 浜松城公園のセミの羽化殻の分布 (2016年7月～9月: ○アブラゼミ、●クマゼミ、×ニイニイゼミ、▲ツクツクボウシ)

浜松城公園セミの羽化殻分布 2016年7～9月

8個(0.4%)の4種の羽化殻を見つけることができました。樹木別にみると、ケヤキ(365個)、ヒラドツツジ(290個)、ソメイヨシノ(203個)にたくさんのセミが発生していました。

新入会員の入会動機



体を動かすこと、出かけることが好きなので、漠然とボランティアに参加してみたいと以前から思っていました。広報はままつでこの募集を知り参加しました。思った以上に内容も深く、先輩の皆さんの知識の豊富さに驚いています。地元の事なのに知らないことや、まだ行った事のない有名な歴史的な場所など沢山あり、とても興味深いです。今からでも新たな視点で地域を楽しみたいと思っています。

西ブロック 矢口せつ子



仕事で各地の観光案内人さんと会う機会があり、いつか自分もやってみたいと常々考えておりました。ところが私は司馬遼太郎さんの「関ヶ原」を読んで以来、石田三成のファンになっておりました。若いころは徳川家康という偉人は正直あまり好きではありませんでした。浜松で徳川家康が好きじゃないと案内人は無理かなあと考えておりましたが…。年齢を重ねるにしたがって家康公の辛抱強さや政治・統治能力に関する偉大さが何となく理解できるようになっていき、また「家康、江戸を建てる」などの本を読んで感銘を受けた結果、今では家康公について自信をもって推せる(お薦めできる)自信が付きましましたのでさっそく応募させていただいた次第です。

家康公のこと、浜松についてもっと色々知りたいと思っています。よろしくお願い致します。

北ブロック 都築厚好



30歳を過ぎて何か趣味を持ちたいと思っていた時に、広報はままつに博物館講座の記事を見て興味があったので応募しました。それ以来、20年近く博物館講座に参加し、史跡・遺跡・民俗・古墳測量調査や浜松市石造文化財調査員として石造物調査、静岡県文化財等救済支援員講習などを通じて、多くの人々と交流し、学び合いました。

60歳を過ぎ、多少時間に余裕ができ、再び多くの人々と交流し、学びたいという思いが強くなってきました。

観光ボランティアは以前から興味があり、今回募集記事を見て応募しました。

西ブロック 山田利夫

7月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

3日	日	NPO 江戸上天守を再建する会	6名
5日	火	浜松市立笠井小学校	85名
		浜松市立新津小学校	127名
6日	水	浜松市立伊佐見小学校	75名
7日	木	クラブツーリズム関西	11人
8日	金	大阪市富小野球一同	3人
12日	火	磐田市立竜洋北小学校	37名
16日	土	(有)マンションライフ イケダ	28名

《犀ヶ崖資料館》

5日	火	浜松市立笠井小学校	78名
6日	水	浜松市立伊佐見小学校	28名
		浜松市立入野小学校	30名
14日	木	浜松市立北浜北小学校	80名

《浜松まつり会館》

団体ガイド活動はありません

はままつ案内人会報 241号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地